

日本でもガン予防マラソン
友の会が企画、代表はカナダへ

ガン患者と家族に生きる希望を与えようと、「ガン予防チャリティー・マラソン」の企画が、ガン予防友の会の手で進められている。

片足をガンで奪われ、義足でカナダを数千キロ走り抜いた青年の人生ドラマを描いた映画「テリー・フォックス物語」を、テレビビデオ化するための資金集めがきっかけ。マラソンにはガン患者やその家族も参加する。

計画によると、四月に大分市舞鶴町、五月に大阪、六月十六日には東京、八月四日には北海道で実施する。

参加したガン患者の中から、九月二十九日カナダで開かれる「テリー・フォックス・ラン」への代表選手を選ぶ。問い合わせ先は、東京都豊島区南大塚三十一一五、小林荘内、ガン予防チャリティー・マラソン実行委員会。電話(〇三)九八〇一四六三九。

(四国新聞、三月十五日)

牛久町とホワイトホース
万博会場で姉妹都市調印

未長い友好と交歓で世界の調和と平和を……。(茨城県)稲敷郡牛久町と、カナダ・ユーコン準州の首都ホワイトホース市の姉妹都市提携調印式が四月十九日、科学万博会場カナダ館で行われた。

両市町の友好関係は、同町内の大型

スーパーで行われたカナダ展を記念する同国の木「メイプルツリー」の植樹をキッカケとして深まり、昨年二月には、ブラニガン市長が牛久町を訪れた。「ワインと湖の町」と「森と湖の市」の交流はその後、急速に進行、科学万博開催時期の意義ある調印となった。

(いはらき、四月二〇日)

アイヌとインディアン
友好同盟協定に調印

カナダ・インディアンとの文化交流を目的に札幌アイヌ文化協会(豊川重雄会長)が派遣した「アイヌ民族とカナダ・インディアンとの国際交流団」(団長・沢井アキ同協会常務理事など十二人)が三月三十一日夜、帰道した。

同団はカナダ西海岸の二カ所のインディアン居留地を訪れ、カナダ政府のインディアン対策の実情をつぶさに見たほか、「アイヌとインディアン」の友好同盟協定書に調印、来年度からの交換留学も取り決めた。

カナダ・インディアンとアイヌとの交流は、これまでも個人、団体間で何度か



カナダで交歓するアイヌとインディアン。

行われているが、その成果が「協定書」の調印という形で実を結んだのは初めて。(北海道新聞、四月二日)

カナダのカワウソが死亡
千葉市の動物公園で

四月二十八日オープンした千葉市動物公園に、昨年十一月中旬、姉妹都市関係にあるカナダ・ノースバンクーバー市から「アンバサダー」(親善大使)として贈られたカナダ・カワウソのペアのうち、メスの「マリオン」(三歳)が子宮ガンで急死した。

死んだ「マリオン」は、体長一尺、体重七・六キ。昨年十一月十七日、オスの「アンディ」と一緒に来日して以来、特製のカワウソ舎内でスイスイ泳ぐなど、元気な姿を見せていた。

(読売新聞、四月十二日)

江ノ島水族館にラッコ
バンクーバーから到着

カナダのバンクーバー市立水族館から藤沢市片瀬海岸の江ノ島水族館に(三月二十六日、海の珍獣「ラッコ」二オス、一歳二頭)が着き、二十九日一般公開される。二頭はバンクーバー市立水族館生まれ。ラッコは現在、日本には三重県の鳥羽水族館など四館で飼育されているが、水族館生まれは今回が初めて。江ノ島水族館は返礼としてタカアシガニを贈る。

(毎日新聞川崎版、三月十九日)

●日本からカナダを訪れる人々の大半は、夏に集中しています。カナダの夏は、厳しい冬から解放された喜びで、躍動感が見なびているからでしょうか。多くの方々が、名所見物の合い間に、ハイキングやゴルフを楽しんでいるようです。キャンプや釣り、ゴルフといったツアーも誕生しましたし、中にはバードウォッチングやカヌー乗りにでかける人もいます。五月末には、村山雅美・元南極越冬隊長をリーダーに、北極圏旅行団がカナダへ出発しました。

●今月は、このカナダの夏に焦点を当ててみました。カナダの冬について書いてもらったことのある時事通信のトロント特派員・平山氏には、カナダ人の夏の生活風景を、数年前から中高校生を率いてカナダで教育キャンプを開いている谷川哲夫氏には、いくつかのキャンプ場の様子を書いていただきました。「北極の夏」について寄稿をお願いした岩下氏は、カナダの極地を何度も訪ねているベテランです。(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三三八

カナダ大使館広報部